

学校の教育目標	◎ 命を大切にできる心をもつ人 ○ 「知恵」を身につけ活かせる人
---------	-------------------------------------

生徒に育成を目指す資質・能力	教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自尊感情を高めるとともに自他の生命尊重、思いやりの行動を実践できる生徒 ○ 自ら主体的に学ぶ意欲と確かな学力をもった生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な知識や技能の習得・定着をさせる学習活動を通じた基礎学力の向上と、主体的・対話的で深い学びを通じた思考力や判断力、表現力等の育成 ・ 「学習のねらい」「授業の見通し」「振り返り」を明確にして一単位時間における学びの質を高める習得・活用・探究を目指した授業づくり ・ G I G Aスクール構想に基づく一人1台タブレットP Cの活用を通じた生徒一人一人のニーズに合った指導

教科	生徒の実態を踏まえた教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典特有のきまりや訓読の仕方を理解し、古典の世界に親しもうとする態度 ○ 文章の読解において、内容を読み取り、適切な言葉で文章の構成や要旨を表現することができる能力 ○ 言葉の特徴や表現技法を踏まえ、自らの考えを分かりやすい文章構成で表現する能力 ○ お互いの立場や考え方を尊重し、他者の考えを踏まえた上で、自らの考えを深められる能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアでの音読などを意識的に行うことで古典特有のリズムの楽しさに触れ、基礎的・基本的な訓読知識の定着を図る。 ・ 単元を通して何を身に付けるかを明確に示し、見通しをもちながら学習に取り組めるようにする。 ・ 読み取った内容から要旨をまとめる活動や、根拠を明確にした意見文を書く活動などの学習を設定し、思考力や表現力の向上を促す。 ・ デジタル教科書の活用やグループ学習、文章の読み合いを通して、他者の考えと自身の考えを比較する場を設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象等の理解の定着を図るとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能 ○ 公民としての資質・能力の基礎を身に付け、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題を把握し、見通しをもつことができるように「めあて」「ながれ」「まとめ」の授業の基本的パターンを明示する。 ・ 電子黒板、デジタル教科書等を活用し、資料からの情報読解力の向上を図る。また、読み取った情報を言語化できるよう指導の充実を図り、深い学びへとつなげる。 ・ 調べ学習や話し合い・討議等の対話的な学びから、社会的事象を考察し、問題解決等を構想する指導を行う。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 ○ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 ○ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度 ○ 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な技能を学ぶ際、その手続きの基礎に概念や原理法則があること、それらを上手く使って数学的な処理が考え出されることを理解できるようにする。 ・ 帰納的、類推的に推論する力を養うとともに、得られた結果を条件や仮定に即して考察できるようにする。 ・ 問題解決の過程を振り返り、数学的な表現を自立的・協働的に修正・改善し、議論の前提を明確にしながら問題の特徴や本質を捉えるようにする。 ・ 自立的・協働的な活動を通して、その過程で様々な工夫、驚き、感動を味わい、数学を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わえるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解、科学的に探究するために必要な観察・実験などの技能 ○ 科学的分析に興味を持ち科学的に探究する力 ○ 事象に興味を持ち、科学的に探究しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験観察を通して、危険ではなく実際に触れることができるものにはできるだけ触れ、触れることができないものに対しては、ICTを活用する。 ・ 科学的に探究するために、実験の結果に対する考察や、結果の整理や結果からわかることの分析を丁寧に行う。 ・ 主体的、対話的な活動を取り入れ、自ら考える力を養い表現する活動を通して科学的に探究しようとする態度を養う。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に対する感性を働かせ、どのように音楽で表すかについて表現意図をもつ態度 ○音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見だし、音楽の特徴について、他者と共有・共感し、音楽に対する価値意識を広げていく態度 ○音楽を通して、豊かで潤いのある人間関係を築く能力 ○音や音楽を生活や社会に生かそうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器に触れる機会を増やしたり、様々なジャンルの歌を歌わせたりすることで実技における基礎・基本を身に付けられるようにする。 ・ワークシートを効果的に活用する。 ・グループワークで他者の意見を聞き、共有・共感できる活動を取り入れる。 ・合唱活動では、リーダーを育成し、よい表現を皆で認め、歌いやすい環境作りをする。 ・授業を通して、お互いを認め合い、尊重し合える場を作る。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、深めていけるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○美術作品に対して造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて理解する能力 ○自ら主題を考え、豊かに発想し構想を練ったり、表現方法を創意工夫し創造活動の喜びを味わうことができるようにする態度 ○美術の働きなどについて考える能力 ○美術文化に対する見方や感じ方を深めることで美術を愛好する心情を育み、心豊かな生活を創造していく態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品の鑑賞を適宜行い、鑑賞カードへの記入や、クラスでの意見交換などによって、その造形的な魅力を考え、気付けるようにする。そうして、自らの創造のモチベーションを高められるようにする。 ・課題のねらいを明確にし、その制作方法や工程を具体的に、実演や映像を工夫してわかりやすく示すことで、生徒自らが主体的に取り組めるようにする。 ・美術作品の鑑賞において、その作品の作者や生まれた時代の社会的背景などについても紹介し、作品と社会のつながりなどについて考えさせ、美術に対する多角的な理解を深められるようにする。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ○自己や仲間の課題を発見し、その課題解決のために、話し合い等を通じて試行錯誤する態度 ○運動や体力の必要性についての理解と、運動を豊かに実践するための知識や技能 ○運動やスポーツには多様な関わり方があることを理解し、自己の体力やライフスタイルに合わせた関わり方を見付け、実践しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技術や戦術について、自他の課題の発見と、合理的な解決に向けた一人1台タブレット端末の活用や、グループでの話し合い活動を行う。 ・体育理論や保健分野の授業と体育分野の授業を関連付けた授業づくりを行う。 ・保健分野の授業において、自己の健康や生活習慣について見直し、自己に適した運動やスポーツの関わり方について考えるなど、生活に関連付けて考える力を養う。 ・授業で取り組むスポーツの「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方について指導するとともに、実践的な活動を取り入れ、主体的に運動やスポーツを実践しようとする態度を養う。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や家庭・衣食住・消費や環境、社会における事象について考え、自立し互いに協力し共生し安全に工夫して生活できる能力 ○持続可能な社会を構築していく心や態度 ○生活や社会の中から問題を見だし、解決策を考える能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を焦点化したワークシートを活用する。 ・調理実習・被服実習、実験作業を多く取り入れた授業展開を行う。 ・グループワークや発表会を取り入れ、主体的に学習に取り組む態度を養い仲間の意見・考え・作品などから学び自分の思考を深められるようにする。 ・学習した内容が家庭で生かせるような課題を出題し、知識・技能の定着を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションによって活用できる技能 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力 ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に使用できる語彙を増やすために、フラッシュカードやデジタル教材の単語学習機能を使った導入、ペアでの発音練習、個別での単語練習やライティングノートを使った書き取り、繰り返しの単語テスト、復習テスト等に取り組めるようにする。 ・既習事項を繰り返し復習することで、さらなる定着を図る。 ・デジタル教科書の映像や写真などを使い、目標表現がどのような場面・文脈で使用されるのかを例示しながら、実際のコミュニケーションで活用できるようにする。 ・目標表現の使用に適切な目的や場面、状況を設定し、目標を明示することで生徒に学習の見通しを持たせ、その目標達成のために自らの学習を調整しようとする態度を育てる。